文部科学省認可通信教育

ON AIR

NO. 95

放送大学通信 オン・エア
発行月　平成21年9月
発　行　放送大学
〒261-8586 千葉市美浜区若葉2丁目11番地
043-276-5111（代）

CONTENTS

放送大学教授と著名人との対談 第1回 …… 1
特集:世界のOPEN UNIV 訪問記 V …… 4
ICTセンターだより …… 6
エッセイ「『買うアート』の普及とアートソムリエ活動」 …… 7
平成21年度新入学生アンケート …… 8
平成21年度学部・大学院開設改訂科目紹介 …… 10
研究室だより …… 14
同窓会・卒業生だより …… 15
学習センターだより …… 16
サークルだより …… 18
インフォメーション …… 20

放送大学教授と著名人との対談
第１回

学習院大学教授
佐野 みどり 教授 × 放送大学教授 東京大学名誉教授 五味 文彦 教授

「面白さと苦しさが一緒、それが学ぶ醍醐味」

昨年の放送大学25周年を機に、本誌では学生にとってより身近で、学ぶことに資する情報の提供に取り組んでおります。その一環として今号よりスタートするシリーズ新企画「放送大学教授と著名人との対談」。

第1回は、日本の中世（鎌倉時代後半から室町時代）をともに主要な研究フィールドとされておられる本学五味文彦教授と学習院大学　佐野みどり教授の対談をお送りします。※本文中は敬称略とさせていただきました。

背景にあるものに迫る

五味　佐野さんは日本美術史がご専門ですが、最近はどんな研究をされていますか。

佐野　現在は、絵巻から掛幅縁起※1に少し軸足を移しています。これらの物語絵画は、美術的意義はもちろんのこと、歴史的、思想的背景など抱えているものが多彩でとても面白い。最古の『聖徳太子絵伝』、近世以後の参詣曼陀羅等はさまざまな角度から研究されていますが、中世の掛幅縁起は多数残っているにもかかわらず、いくつかの個別的な作品研究はなされても、全体を俯瞰した基礎研究は手がつけられておりません。そこで、中世史、思想史など様々な分野の専門家の方々と共同研究プロジェクトを組み、〈中世掛幅縁起絵の総合研究〉に取り組んでおります。海外でも、熊野信仰や仏教学など宗教史的なものに比べ中世美術の分野はあまり知られておりません。そのため、昨年はパリで、今年3月にはニューヨーク・メトロポリタン美術館でワークショップを開催しました。

五味　掛幅縁起と絵巻との違いは何でしょうか。

佐野　掛幅縁起は寺社が主体となって、庶民に絵解きして見せて、霊場や堂の修造等の勧進に利用しました。そのため、鑑賞を前提とした絵巻に比べ公開性が高く、また絵一面の中に寺社にまつわる奇蹟の物語がちりばめられています。そこでは、背景が重要になってきます。そのミラクルが起こることを保証する景観とでも言いましょうか、物語は霊地や伽藍という実在の“場”と結びつき、さまざまな絵画的仕掛けを伴いながらも現実の景観の投影がなされています。これを私は〈景観の在地性〉と呼んでいます。

五味　掛幅縁起は、実際にその“場”があったとい

※1 掛幅縁起…寺社の草創や神仏の霊験、祖師等の事績など宗教的物語を描いた作品のうち、特に大画面のものを指す。

うことがかなり意識されて描かれているわけですね。昨年はご専門の源氏物語が千年紀を迎えましたが、この『源氏物語絵巻』と掛幅縁起とは日本美術史の中では極めて対照的ですね。

佐野　『源氏物語絵巻』には、圧倒的なテクスト（文学）の大きさというものがあり、絵画は2次的なものです。そのため、元の世界（文学）がどうなっているのか、その深さに入り込み、いっこうに絵画に戻ることができません。行きつ戻りつ牛のように反芻してはモヤモヤとし、の繰り返しです。一方、掛幅縁起は、ビジュアルの微視的な世界へとつい誘い込まれてしまう。物語絵画には前提となった世界が背景にありますが、特に掛幅縁起では、縁起の世界と現実の世界が結ばれ、その繰り返されるイメージが微視的世界を支えていると言えます。ですから、絵そのものを表層的に取り上げると見誤る、という危うさを孕んでいます。逆に、それら背景にあるものをパズルのように一つずつ読み解く楽しみがありますね。例えば、寺社縁起には「霊木が流れ寄る」パターンが多く見られますが、中世の「木」に対する考え方・信仰はどうなんだろう？中世の人の歴史観は？そういうものを知れば知るほど研究は面白く、深くなります。

佐野みどり教授
学習院大学教授。専門は日本美術史・芸術学。『源氏物語絵巻』研究の第一人者。中世の物語絵画の分析にも定評がある。趣味は、宝塚観劇と食玩フィギア収集。

五味　物語絵画のもつ奥深さを現代に引きずり出そうとなさっている。そして隣接領域への興趣は広がり尽きない、ということですね。私も放送大学の面接授業で各地を飛び回っていますが、地域の歴史的な史料・素材から地域性をどのように探求し深めるべきか、を考えています。専門の中世だけ見ていては地域の力というのは見えないのではないかと自問自答しつつ、研究領域に少し広がりを持つようにしています。

実際に出かける、実物に触れる、ということ

佐野　掛幅縁起研究会も各地に出かけ、博物館等で原本調査を行っていますが、併せて必ず行うのが現地調査です。『志度寺縁起絵』は香川県志度寺、『観興寺縁起』は久留米市勧興寺、『温泉寺縁起絵』は神戸市有馬町温泉寺…。描かれた“場”に立つこと。そのことで自分の研究の立ち位置を確認する、そしてここから研究が動き出すんだ、そんな実感があります。

五味　四国に行き、九州に行き…実際に旅をしながら、絵画の中でも旅する…。

佐野　そうですね。掛幅縁起の隆盛を14世紀とするなら13世紀にその前史として宮曼陀羅[※2]や、ある種の説話性をもった仏画があります。たとえば笠置の磨崖仏信仰を描く『笠置曼陀羅』。奈良・大和文華館で原本調査し、その足で笠置寺へ。実はこの『笠置曼陀羅』との出会いが、掛幅縁起を研究しようと思った契機でした。何て面白く奥行きが広いんだろう、と。笠置山はそれ自体大きな岩山なのですが、そういうことを実感することも、作品と向き合う一つの切り口になりえます。特定の景観が絵の中に描かれていなくても、まずは行ってみる。作品を制作した人がいる、それを見に集った人々がいる―その人いきれ、匂いといった臨在感を嗅ぎに。

五味　同感です。行くか行かないかでは全く違う。頭で考えたり、誰かに連れられてより、自分で歩いてみると見えなかったものが見えてきます。私も先年、笠置寺へ奈良から柳生街道を徒歩で行き、弥勒磨崖仏の巨大な光背を見てきましたが、改めて歴史眼が磨かれた思いでした。

五味文彦教授
放送大学教授、東京大学名誉教授。歴史学者。専門は日本中世史で、文学や絵画など多様な史料と考古学の成果をもとに、日本の中世を幅広い視野で捉える研究を続けている。

佐野　『観興寺縁起』のように描かれた山の稜線と実景とが一致して「ここから描いたんだな」と分かる場合もありますが、それは目的ではありません。

五味　『春日権現霊験記絵巻』に描かれた春日大社は現在とほとんど変わりませんが、あまりにも近いとついつい騙されてしまいます。見失ってしまう。ネットを始め多くの媒体もそうですね。便利で何が描かれているかぐらいは分かり、見た気にはなりますが…。

佐野　絹の上に岩絵具が載っている、絵巻はああこうして巻いているんだなとか、そういうものを直接

※2 宮曼陀羅…神社の境内を聖域、浄土として俯瞰的に表したもの。

実感してほしいですね。モニター上では、触覚的なことや、大きさの実感とかは得られませんから。

五味　TVや書物も含めてこれらの媒体によって、私たちは作品に接する前にすでに“案内”されているようなところがあります。前知識があると見えるものも見えない。自分の目で見る、自分なりに一つ発見する、そういうことは大切だと思いますが…。

佐野　学生に常々言っています。作品の前で感じたり心が動いたりというのは、その人自身の“個”と作品のぶつかり合いなのよ、と。展覧会場で全部見て全部感動するというのは無理だし無意味です。本当にこの一点、今日の自分との出会いがあればいい—だから、ひと通りサーッと見たら、気になるものをゆっくり見る、そんな見方でも構わないのよ、と。ただ、混んだ会場での逆行は迷惑で叱られる、と言われましたけれど。

放送大学で学ぶ人への期待

五味　私も同様のことをして怒られたことがあります（笑）。ところで学生のお話が出ましたが、学生に対してどんな思いがおありですか。

佐野　教師の側に立って思うことは、学ぶ対象がいかに面白いかを伝えることが大切だということです。でも辛い。面白さと苦しさが一緒になる、それが学ぶことの醍醐味なのよ、ということも。ところが、あまりに私のテンションが高すぎるのでしょうか、面白いからあそこにも行こう、ここにも行こう、といっていると学生がついていけないといったこともあるようです。私は目的地が近づけば近づくほど、ドキドキしてエネルギーがますます充満するのですが…。

五味　後ろを見たら誰もいなかった？（笑）それは私にもありますよ。歴史的文化財のアレを見よう、コレを見ようとしていた時「先生、もうやめましょう」と。後ろからついてくる学生にとっては、どこに行くのかわからない。いちばんの年寄りが元気なのだから、若い学生は辛い。でもその気持ち、判らないではない。家族と旅行に行く度に注文が付くんです。“専門”は家に置いてきて、観光気分で、とたしなめられます。どうもついつい、自分の専門の興味が先に行ってしまいますよね。ところで学生時代についてどうお考えですか。

『源氏物語絵巻』と並ぶ絵巻物『信貴山縁起絵巻』

佐野　学生時代というのは恵まれた時間ですね。学部4年間で随分力がついています。そのまま卒業は勿体ない。一方で、美術が好きだからと大学院に学び直しにくる人もいます。そういう人たちのテーマの深め方や発想の豊かさに接していると、指導するというより自分が学ばされていると感じることの方が多いですね。

五味　急速に成長しますよね。放送大学では20代からご年輩の方まで幅広い方が対象で、価値観も多様です。ところが演習が進んでゆくうちに、途端に和気あいあいとして一つにまとまる。そればかりか互いに切磋琢磨するようになる。放送大学で講義されたことのある佐野さんはどのようにお感じになりましたか。

佐野　4年間お世話になりましたが、採点しながら元気をたくさんいただいたと感謝しています。さまざまな方がさまざまな学びのスタイルを持っておられ、それぞれ頑張っていらっしゃる。答案に手書きで朱入れしながら、私自身はっと気づかされたり学んだことが多くありました。

五味　“教えること”は“学ぶこと”ですからね。…教育はこうあるべし、というのはどうもないらしい。学生に寄り添いながら学ばせて貰う…そういうことでしょうか。

佐野　そう思います。放送大学の方々は、ご自分のテーマを集約的につかむというところでは少し苦労をなさるかもしれません。けれども、人生経験が豊かな分、このテーマ、あのテーマと拡げていける強みがあると思います。それこそ“お供”ではない、自ら切り拓く底力を持っていらっしゃる、と。

五味　長い時間、ありがとうございました。久しぶりにお会いできて楽しい話がうかがえました。もっと宝塚の話などおうかがいしたかったのですが、それは次の機会にしたいと思います。これからのますますのご活躍を期待しております。

中国における遠隔教育について

教育研究支援部ICT活用教育支援課
国際連携係長
鈴木　篤志

石 弘光 学長

葛道凱（ぐ だおかい）学長

2009年5月7日中国中央広播電視大学（以下「CCRTVU」という）に於いて、学術協力及び交流に関する協定調印式が執り行われるにあたり、石学長、青山教授に帯同し訪中した。

午前中に放送大学石学長とCCRTVU葛道凱学長との間で協定書にサインが行われ、正式に協定が締結された。

CCRTVUは1978年に創立された遠隔教育を目的とした大学であり、中国全土にある44の大学を管理下に置き、956の分校、1875のワーキングステーション、51665のティーチングクラスを持つ巨大な組織の中心を担っている、謂わば中国遠隔教育の中核大学である。また、CCRTVU自体、9のフィールド、70のプログラム、1800のコースを持つ大学であり、印刷教材を用い、テレビ、ラジオ、インターネット、CD・DVDを使った遠隔教育を行っている。また、通信衛星を使って中国全土に放送教材を配信している、謂わばマルチメディアを駆使した最先端の大学と言える。

協定調印式のためにCCRTVUを訪れ、最初に驚いたことは、放送大学と学術協力及び交流に関する協定を締結することを私達の想像以上に重要だと考えている事、がはっきりと感じとれたことであった。

それは、協定調印式がCCRTVU内のスタジオで執り行われ、それを管理下の44大学に「生中継」したことでよく理解できた。

写真を見ても分かるとおり、マルチスクリーンが数分割され、各大学の首脳陣が画面に写っている。

このスクリーンは数秒間隔で変わり、44大学が同時に視聴していることがわかるというもの。天井に備え付けてあるカメラで撮影された調印式の模様が全ての大学に配信されており、マルチスクリーンには受信側の様子が写っている。

このことからも分かるように、CCRTVUが44の大学を代表して、放送大学と学術協力及び交流に関し協定を同時に締結したことになる。この「生中継」に重要な意味があること、また、日本の遠隔教育大学と協定を締結することに深い関心があることがよく分かる。

放送大学にはこのような設備も整備されていないし、また、このような考え方もしたことが無いように思えた。例えば日本にもっと複数の遠隔大学が設立され、その中心となるのが放送大学となれるのであれば、中国に劣らない組織になれるだろうし、また、生涯教育、遠隔教育がもっと重視され、欧米諸国並に進んだ近代的な教育方法の構築も可能になるであろう。近年の学生数の減少を食い止めるには、まず国内の遠隔教育に組織的に取り組み、全国の学習センター、サテライトスペース、他大学との強い連携が必要なことだと痛感した。

印刷教材、放送教材はもとより、インターネットなどをもっと活用した教育方法の構築が急務ではなかろうか。また、旧NIMEとの統合により一回り大きくなった放送大学が、今やるべきことを今回の中国の訪問で強く思わされた。

午後には、北京市内にある北京師範大学を訪問した。ここでは、石学長が学生を対象に「日本の生涯学習、遠隔教育」について講義を行った。

中国のインターネットサイトに調印式のニュースが掲載された。

講義内容としては、日本は50年後には人口の約40%が65歳以上になること、日本での生涯教育の現状、今後の遠隔教育の動向等である。

約1時間の講義であったが、ここでも驚かされた事がある。

講義が終わってディスカッションの時間をとってもらったのだが、次から次へと質問を投げかける学生が多数いたことである。

やはり、ここでも日本の生涯学習、遠隔教育に強い関心があることがうかがえた。中国でもこれから教育者になろうとする学生が、日本の遠隔教育を学び、自国の教育方法に生かしたいとの思いがひしひしと伝わってきた。例えば大学の講義室で、毎年同じ講義を繰り返すならば、別に一ヶ所に集まる必要もなく、遠隔指導教育で充分であろうし、マルチメディアを駆使した最先端の教育方法を構築するべきであろう。もしかすると中国のほうが日本よりも生涯学習、遠隔教育に関心が高いのかもしれない。これから教育者になる人たちの勢いを感じ取れた。日本で講義したならば、これほど熱く質問を寄せる学生がいるだろうか。これも民俗の差だろうか。日本の将来に不安を感じてしまう。

最後に、今回の訪中で一番心に残ったことは、中国はこれからどんどん発展していき、日本を追い越す勢いにまで成長していると思えたことである。日本が将来、生涯学習、遠隔教育で取り残されないためには、中国との強いつながりを持ち、相互に、高い水準の遠隔生涯構築システムを早い段階で構築し、アジアはもとより世界に向け跳躍を試みることではないだろうか。放送大学の今後の発展は国内外の連携にかかっていることを実感した。有意義な訪中であった。

ICT センターだより

実物以上の体験？ ミクストリアリティを応用した展示

ICT活用・遠隔教育センター 准教授 近藤 智嗣

博物館に足を運んで、展示されている実物標本やレプリカなどの実物を観察することは、放送大学の授業を補う点でもとても意義があります。私たちは、その展示を見学する時に、さらに科学的な物の見方ができるように、ミクストリアリティという先端技術を応用した研究を行っています。本稿では、この研究の一環として実施したイベントについてご紹介します。

2009年7月2日から4日間、東京の上野にある国立科学博物館で、ミクストリアリティ（MR）技術を応用したイベント「よみがえる恐竜Ⅱ」と「ミクストリアリティ進化ゲームⅡ」を開催しました。

ミクストリアリティ（MR）とは、一言で言うと、「そこに無い物があたかも目の前にあるように見える技術」のことです。なんとも不思議な説明ですが、画像認識や位置センサー、リアルタイム三次元コンピュータグラフィックス（3DCG）などを駆使した先端技術です。

写真１は今回のイベントのMR展示の一例です。

（写真１）収斂進化のMR展示

天井から吊されている２体の骨格標本は、左が水生哺乳類、右が水生爬虫類です。違う進化の道のりですが水中に適応して似通った姿になった収斂進化の展示です。この骨格標本をＭＲスコープ（双眼鏡）で見ると写真1右下のように肉付きされ、尾ひれの動きが上下（哺乳類）と左右（爬虫類）というように、3Dアニメーションでその泳ぎ方の違いを確認できるというものです。

ミクストリアリティ進化ゲームⅡは、「進化」をテーマにしたクイズラリーです。参加者は、携帯型ゲーム機を持って館内を移動し、その途中で写真1のようなMRを体験したり、写真2のように携帯型ゲーム機上に表示される3DCGを観察したりしてクイズに答えます。クイズを通して骨格標本の科学的な見方の一つを学ぶ学習プログラムになっています。

（写真２）携帯型ゲーム機上に3DCGが表示された問題

よみがえる恐竜Ⅱは、白亜紀後期に生息した植物食恐竜のトリケラトプスをテーマにしたＭＲ体験イベントです。目の前にある化石片をＭＲスコープで見ると、それがフリルの一部であることがわかります。さらに、頭部骨格から肉付けへと3DCGが切り替わりながら歯の構造などについて解説されるというものです。写真3は、MRスコープに表示される映像です。MRスコープには、小さなビデオカメラとディスプレイが左目用と右目用に2セット入っていますので立体視で見ることができます。MRスコープの位置や傾きは、光学式位置センサー、壁に貼られているマーカー、ジャイロセンサーで計測し、それに合わせてリアルタイムに両眼用の3DCGを生成し、ビデオ映像と合成しています。つまり、しゃがんだり回り込んだりして見ることができるということです。

（写真３）MRスコープで見た立体映像

このイベントは、国立科学博物館、キヤノン株式会社と放送大学との共同研究によるものです。今後は、放送大学の科目に合わせたコンテンツを開発し、学習センターでも体験できるようにしたいと計画しています。

参考：http://tkondo.code.u-air.ac.jp/

essay

「買うアート」の普及とアートソムリエ活動

放送大学学園 理事　山本 勝彦

◀中央:山本 勝彦 理事

日本人はアート好きな国民だといわれますが、イギリスのアート雑誌によると美術館の入場者数は5年連続世界第一位であり、「鑑るアート」に関しては事実のようです。一方、日曜画家の数やカルチャーセンターの隆盛を見ると「作るアート」もかなり進んでいます。しかし、家に一枚でも本物のアート作品があるかというと、さびしい状況ではないでしょうか。一般の人にとって、プロの作家の作品というと高額だし、アート作品を買うというと一部のお金持ちの趣味だと思われているのではないでしょうか。確かに有名な作家の作品はその通りですが、プロを目指す若手作家や評価の定まっていない無名作家の作品は一般の人でも買える値段なのです。しかし、この事実は知られておらず、アートを買って生活の中で楽しむという「買うアート」に関してはまったく遅れた状況にあります。

アートの世界を一つの産業と考えた場合、作家＝生産者、画商＝販売者だとするとユーザーがいなければ成り立たないのは明白です。昔は絵描きや小説家は食えない職業の代名詞ということで、生産者である作家の数はおのずから限定されていました。一方、アートのユーザーとしては美術館や企業などの大口顧客がいたこともあり、需給のバランスがとれていました。しかし、最近は美大から毎年二万人の生産者予備軍が排出されるのに対し、大口ユーザーである美術館や企業の作品購入は不況もあいまって激減しています。美術館は運営費すらままならない中で作品購入費がゼロのところさえあります。企業も企業メセナの低迷に加え、高額アート作品などを購入すると株主総会などでたたかれるのが怖くて、サラリーマン社長では決断できない状況です。このような構造不況状態である美術界を立て直すには生産者を減らすか個人ユーザーを増やすかしかありませんが、アートを買うことで生活を豊かにし、作家を支えるという個人ユーザーづくりは誰もやっていません。

私は30年前に家を買って壁にかける絵を一点買ったことがきっかけで、毎週末の画廊めぐりとアート蒐集を趣味としてきたサラリーマン・コレクターです。その経験を生かして一般の社会人に「買うアート」の啓蒙・普及をしたいと思ってきました。家に一点でもいいからアート作品を飾りたいと思っている人はかなり多いと思いますが、絵を買う場所である画廊は敷居が高いし、下手に行くと高額な絵を買わされるのが怖いということでとどまっているのではないでしょうか。生産者である作家や販売者である画商は当然自分たちの作品を勧めますが、私はあくまでもユーザーの立場でアドバイスをするというニュアンスを示したいということで「アートソムリエ」と名乗っています。

具体的に何をやっているかといいますと、アート普及に関する執筆・講演、ギャラリーツアー、自分の所蔵品によるコレクション展などを行っています。今年の8月にはちくま新書から『週末はギャラリーめぐり』という啓蒙書を出し、来年の1月14日～2月21日までは新宿の（財）佐藤美術館で大きなコレクション展を行う予定です。

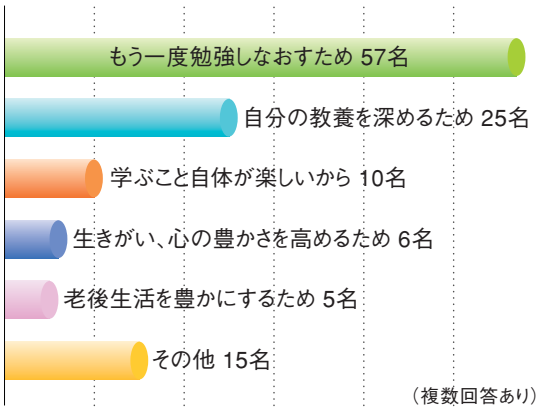
放送大学に何を期待しますか？

今春入学の「団塊世代」100人に聞きました

前号（94号）の「看護師さん」に引き続き、今号では今年4月に入学された「団塊世代」のアンケートを行いました。年齢は55歳から63歳までの「団塊世代」及びその前後の方々で、学ぶ意欲が旺盛な世代です。

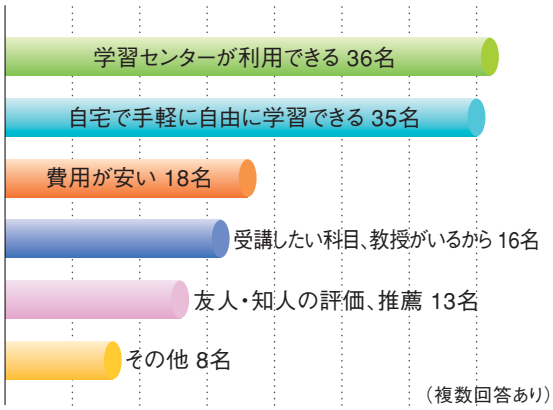
仕事をリタイアされて、人生のセカンドステージに向けて、新たな志を抱いて入学された方、生活に余裕が生まれたのをきっかけに今まで胸にしまっておいた“学ぶ”ことへの情熱を実現させた方などに放送大学入学の目的、魅力などについてお聞きいたしました。

1 放送大学への入学目的・動機は？



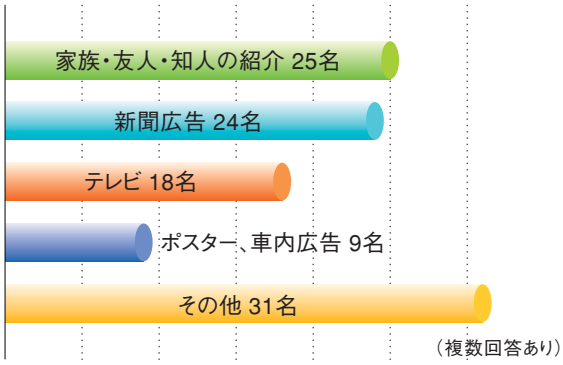
- 圧倒的に多かったのが「もう一度勉強しなおすため」でした。「国文学の教師だったが、英語をもう一度きちんと学びたかった」「大学に進学できなかったが、リタイアをきっかけに少しづつ勉強してみたかった」「日本文学のセミナーに参加して、どうしてももっと系統的に学んでみたくなった」などが理由です。
- 次に多かったのが、「自分の教養を深めるため」。「技術系の仕事をしてきたが、もっと広く社会全般の勉強をしたい」あるいはその逆に「大学は文科系だったが、実は科学が好きで、先端の学問の知識に触れてみたかった」などです。
- その他の項目では、「ボランティア活動に役立てたい」「友人が入学して頑張っているのに触発された」「息子に“ボケ防止”になるからとすすめられた」などがあげられました。資格取得を目的にしている方ももちろん数多くおりますが、全般的には“学ぶ”こと自体に意義を感じ、“楽しさ”、“充実感”を求めているという傾向がうかがえます。

2 放送大学を選んだ理由は？



- 「学習センターが利用できる」がトップでした。週に2～3回利用するという方も多く、若い世代の学生と比較して、ある程度時間が自由に使えるというのが理由です。なかには旅先でも学習センターをよく利用するという方も。「静かで雰囲気も良く、頑張ろうという気になる」という意見もありました。
- 「自宅で手軽に自由に学習できる」もほぼ同数で、学習時間の制約が少ないことも放送大学の大きな魅力になっています。
- 「受講したい科目、教授がいるから」を挙げた人も多く、科目数が多岐にわたること、有名教授、ファンの多い講師が数多くいることも支持された理由のひとつです。

3 放送大学入学の経緯は？



- 「家族・友人・知人の紹介」が多く、先輩、同世代の知人が実際に入学していることを聞き及んでの選択で、大学の評価が口コミでも浸透していることを感じさせます。
- 新聞、テレビなどのメディアで放送大学を知っていた方が多いのは当然ですが、あらためて意識したきっかけは、「その他」の公民館、役所、図書館、郵便局、書店、病院といった地元エリアの情報が大きかったようです。

4 放送大学に入学して現在の感想・要望は?

[現在まで受講した感想]

毎日が充実! もっと早く始めていればよかった。

勉強を始めて、あらためて知らないことがこんなにたくさんあるんだと気づきました。そのことが理解できただけでもうれしい。今後、科学の知識をさらに深めていきたい。

45分間の講義は私にとって宝物。とにかく楽しいと感じています。

社会福祉分野に興味があり、入学した。将来、少しでも社会に還元することを目標にがんばっていきたい。

はじめはペースがつかめず、少しきつかったが回を重ねるごとに慣れてきた。今では、リタイアした同期の人間に入学を勧めているほど。

[今後充実させてほしい講座、是非受講したい講座]

・基礎的な科目の充実 ・英語関連の講座の充実 ・農業関連の講座 ・美術系で映像を多用した講座 ・社会還元ができるような講座 ・ロシア語、インドネシア語 ・ヨーロッパの歴史(ローマなど時代を絞り込んだ内容) ・音楽関係、映画関係の講座 などがあげられました。今後の参考にさせていただきたいと思います。

団塊世代の人気講座 10

1 英語の基本
2 心理学入門
3 食と健康
4 数学再入門
5 韓国語入門
6 初歩からの生物学
7 歴史と人間
8 日本の古代
9 世界の名作を読む
10 社会福祉入門

履修別では全科履修31%、選科履修40%、科目履修29%という内訳です。受講科目数の平均は、全科=4.3科目、選科=2.9科目、科目=1.6科目という状況。

人気科目については、トータルでの単位数取得が必要とされる全科生と、好きな科目だけを自由に選べる選科、科目生では若干傾向が違いますが、人気が集中しているのが「英語の基本」、「心理学入門」といった基礎講座でした。男女別では、「数学再入門」「日本の古代」が男性、「心理学入門」「社会福祉入門」が女性に人気という傾向がうかがえます。

団塊世代からひとこと 「私たち、こんな夢と情熱で学んでいます」

小島 昭芳 さん(60歳)

「バイオサイエンスで豊かな暮らし」を受講しました。講師の冨田先生の講演を聞いたのがきっかけで、入学したんです。個人的に佐渡で“バイオマス”の研究を続けてきたのですが、自然再生の点からも是非、冨田先生に学びたいと思いました。現在、県から委嘱を受けて“地球温暖化防止委員”として活動しています。地域の啓蒙活動についても放送大学で学んだ知識が役に立つことを期待しています。それと、リタイアしたので“ボケ防止”という意味もあるかなと思っています。

蓑田 泰子 さん(62歳)

「日本語基礎A」「日本語基礎B」ほかを受講しました。ボランティアで日本在住の外国人に日本語を教えています。自治体が主催している「日本語練習会」にも参加しているんですが、人に教えるからにはやはりきちんとした知識が必要だと感じ、入学しました。授業は孤独だと感じることもありますが、2学期も引き続き頑張っていきます。学習センターではパソコンサークルに参加しています。同じ年代の方との触れあいもあり、励みになっています。

玉木 千太郎 さん(60歳)

「音楽理論の基礎」「世界の名作を読む」ほかを受講しました。知的探究心を満足させたいという思いがあり、リタイアをきっかけに興味のある分野を系統的に学んで見ようと思っています。学習センターには週2~3回通い、クラシック音楽の面接授業も大変楽しい授業でした。音楽、美術などの芸術系の講座がさらに充実して、選択肢が広がるといいですね。2学期からもう少し受講科目を増やしたくなり、結局、全科生で申し込みました。

舩木 麗子 さん(59歳)

「博物館経営・情報論」を受講しました。現在、博物館関連の施設に勤務しているのですが、ほかの学校にはこの関係の講座が見当たらなかったので決めました。とても面白く興味が持てたので、科目生として1科目しかとらなかったのが残念です。2学期からは全科生に編入して“エキスパート”(科目群履修認証制度)の歴史系博物館プランを取得できればと夢が広がりました。

地中海世界の歴史（'09）

東京大学大学院教授（放送大学 客員教授） 本村 凌二　東京大学大学院教授（放送大学 客員教授） 高山 博

本村 凌二 教授

高山 博 教授

現代の世界に緊張をもたらす原因のひとつに、ユダヤ教、キリスト教、イスラームの対立があります。いずれも一神教である点で共通していますが、これらの母胎となるのが地中海世界でありました。そこには、オリエント文明、ギリシア・ヘレニズム文明、ローマ文明が錯綜して立ち現われました。すでに古代にあって地中海世界は多種多様な人々が人類史上最初の創作と試行をくりかえした舞台でありました。

その後も様々な民族が興亡しましたが、宗教を軸にながめれば、キリスト教文明とイスラーム文明に二分されます。地中海世界はいぜんとして緊張関係のなかで対立と共存がくりかえされる舞台でありました。

ふりかえれば、20世紀は、戦争と殺戮、技術革新と大量生産、人口の爆発と環境の破壊などをともないながら、未曾有の変貌をこうむった時代でした。それを思えば、21世紀をむかえた現代文明の源流には地中海世界があったことも無視できません。われわれはほんとうに大変貌を遂げたのでしょうか。それとも、未だに文明の底流にある近代以前の枠組みのなかで生きているのでしょうか。それを問いかける機会になれば望外の幸せです。

現代環境法の諸相（'09）

社会と産業 准教授 原島 良成　上智大学教授（放送大学 客員教授） 北村 喜宣

原島 良成 准教授

北村 喜宣 教授

法は環境を守れるのか―。環境保護に関する法律や条例の解釈を突き詰めていくことは大切ですが、いずれ人の作文したものですから、いつも頼りになるとは限りません。しかも、法は、誰かに執行されなければ、生きてこない。廃棄物の不法投棄が禁止されても、深夜に山中でこっそり行われてしまいます。深刻な環境汚染が発覚する頃には、もう責任を追及しようがない。それは税金で処理するのが正しいでしょうか。未然防止の手段はなかったのでしょうか。法令集を飛び出して世の中で生きている環境法の姿を、捉えてみたくはありませんか。

本科目の印刷教材は、単なる講義用の資料集とは異なります。主任講師の北村喜宣教授が、体系性、一貫性を考えて全章を単独で執筆した、環境法学の基本書となっています。各章完結ではなく15章分という長さを活用して、初歩から発展へ読者を丁寧に導くことを、意識しました。また、放送教材も、講師が入れ替わるオムニバス形式ではなく、一貫して北村教授と原島が二人で担当し、その場で理論の説明と具体例の紹介を受け渡しあいながら、進行していきます。説明には、適宜、復習を取り混ぜ、放送ならではの工夫も加えております（ELP cafeコーナー等）。印刷教材のどの章の叙述が放送教材のどの回の説明と対応しているのか、自らの頭で考えながら受講することで、理解が一層深まるでしょう。

複雑な事柄を平易に説こうとすれば、どこかに「ごまかし」が紛れ込みます。本科目は、環境法学の最前線で今まさに論陣を張っている現役研究者が講じるものであり、決して受講生を「わかった気」にさせるものではないかもしれません。しかし、講演会やカルチャースクールでちょっと環境法をかじるのとは違う、大学の専門科目の雰囲気を味わうことができるでしょう。講師とともに最前線で悩むという刺激的な体験が、あなたを待っています。

障がいと共に暮らす（'09）

熊本学園大学教授
（放送大学 客員教授）河野 正輝　熊本学園大学教授
（放送大学 客員教授）東 俊裕

河野 正輝 教授

東 俊裕 教授

2006年12月、国連総会で「障がいのある人の権利に関する条約」が採択されたことをご存知の方もおられるでしょう。世界の障がい当事者団体が、Nothing about us without us（私たちに関することは何事も私たち抜きに決めてはならない）という合言葉のもとに、主体的に参画して国際世論を動かし、採択にこぎつけた新しい条約です。この条約に照らして、障がい者の隔離収容と差別をいかにして克服するか、わが国も検討を迫られています。

そこで、この科目では障がいをめぐる考え方が歴史的に発展してきたことを振り返り、「障がいのある人の権利に関する条約」が到達した諸原則を取り上げて解説します。とりわけ障がいの捉え方をめぐる医学モデルと社会モデルの違い、差別の禁止と合理的配慮の責務、アクセシビリティの保障、および自立した生活と地域社会への統合などはいずれも重要なキーワードです。これらの条約の諸原則を踏まえて、わが国の障がい者の教育、障がい者の医療、障がい者の就労支援と雇用、障がい者の所得保障、障がい者の自立支援および権利擁護について、各章ごとに、その現状と課題を考察しています。

この科目の作成と編集にあたっては、たいへん多くの障がい当事者や、福祉サービス事業者・福祉施設等の関係者にご協力をいただきました。この新しい科目が、障がい者福祉の法制を学ぶだけでなく、障がいのある人の自立した生活と地域社会への統合について考える上で、一助ともなれば幸いです。

道徳教育論（'09）

上越教育大学大学院教授
（放送大学 客員教授）林 泰成

林 泰成 教授

道徳教育という言葉で皆さんは何を思い浮かべますか。価値観の押しつけでしょうか。戦前戦中に教えられていた「修身」をイメージされる方もいらっしゃるかもしれませんね。たしかに、道徳教育は、一面において、価値の教え込みを行います。しかし、現在では、道徳教育は、主として学齢期にある青少年に道徳性を身に付けさせることを目標とする種々の教育の総称である、と言うことができます。道徳性の意味については、社会的時代的背景によりさまざまに議論されてきましたし、現在でも、国によって文化によって違ったとらえ方がされることもあります。けれども、現在では、多くの場合、非常に幅広い概念としてとらえられ、偏った価値観や理念に基づくものとは考えられていません。民主主義的な社会においても必要な教育ととらえられています。そうした観点から、本講義では、道徳教育の歴史や法的な規制、学校教育における道徳授業の方法だけにかぎらず、家庭や地域社会とのかかわりや、カウンセリングや人権教育とのかかわりなど、道徳に関連するさまざまな話題を取り上げます。

教師を目指すひとのみが道徳教育論について学ぶ必要があるというわけではありません。私たちは、家庭人としても、地域住民としても、子どもたちのモデルになりえます。そうした意味で、すべてのひとに道徳教育論を学んでいただきたいと望んでいます。

宇宙を読み解く（'09）

自然と環境 教授 海部 宣男　自然と環境 教授 吉岡 一男

海部 宣男 教授

吉岡 一男 教授

私たちは、どんな世界に住んでいるのだろう。世界は、どのようにして生まれたのか。二千年以上も前のインドでもギリシャでも中国でも、人々は現代の私たちと同じ問いと探求の心を、歌や詩に託して残しています。はるかな昔から問い続け、知る努力を続けることで、人間はさまざまな場所に進出し、高い収穫や豊かな生活を獲得し、文化・科学・技術を発展させて、「人間」になったのだと言えます。だから子供はみんな知りたがり屋だし、私たちも宇宙や自然の新しい発見を聞いて、心が躍るのです。

現代の科学がとらえる宇宙は、単に遠くて巨大な世界ではありません。膨張とともに時空や物質を生み出した宇宙、太陽系と地球を暗黒星雲から作り出し、生物・人間を生み出し、そしていまも無数の惑星と生物を生み続けている宇宙です。2009年度10月から新たに開講する『宇宙を読み解く』は、多様で謎に満ちたこの宇宙を、それに挑戦してきた人間の目で、改めて読み解いてゆく講義です。「なぜ？」をキーワードに宇宙を読み解き、そして私たち人間を振り返って見ましょう。文系の方にも楽しんでいただきたいと、これまでの天文·宇宙の講義とは大きく異なる構成を試みました。放送授業は、アシスタントの岡山さんと一緒に、ロケも含めて楽しく展開します。

さまざまなリスクや問題を抱える現代の地球市民にこそ、自然を科学の目で読み解く力＝科学リテラシーが求められています。ぜひ、講義でお会いしましょう。

環境と社会（'09）

社会と産業 教授 鈴木 基之　京都大学大学院教授（放送大学 客員教授） 植田 和弘

鈴木 基之 教授

植田 和弘 教授

そもそも、環境問題とは何でしょう。自然環境の恩恵の中で発展してきた人間の活動が余りに巨大なものになり、環境に対して大きな負荷を与えるようになってきました。その結果として、自然のしくみも悪化せざるを得ず、人間の生命・生活にも負の影響が及ぶこととなっている訳です。鉱毒事件、水俣病などの公害問題、水域の劣化、温暖化・酸性雨など地球規模の問題、生態系の破壊など、その現れ方は異なるものの問題の構造は同じです。簡単に言えば、元々の原因は人間の側にあり、それが複雑な自然のメカニズムを破壊することによって、人間の生存が危うくなるという形です。

この環境問題を解決するためには、人間活動を制御していくことしかありません。そこには法的なしくみや、経済的な手法など様々な形の社会的対策が考えられ、それに並行して技術開発なども進むことになるでしょう。

本講義においては、環境に関する歴史を概観し、経済的な観点からどのように環境問題が考えられているのか、法的なしくみはどう動いているのか、行政面では、あるいは国際的にはどのように展開しているかが紹介されます。環境経済については主任担当講師のお一人、植田和弘・京大教授、環境法についてはゲストとして大塚直・早稲田大学教授に講義頂きます。いずれもこの分野の指導的立場におられます。

あらためて、環境問題を自分の属する社会の問題として考える良い機会にして頂ければと願っています。

途上国の開発政策('09)

社会経営科学プログラム 教授 髙木 保興

髙木 保興 教授

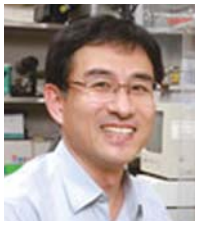
この科目では、修士論文のテーマについてまだ最終決定ができないでいる院生、これから大学院への進学を目指している学部生、そして、途上国にかかわる仕事についている社会人を主な対象と考え、修士論文の作成に役立つことを第一の目的にしました。印刷教材の各章は、1つのテーマだけを扱い、そのテーマについて重要だと思われることを、できるだけ3点に絞り込みました。そして、放送教材では、ふんだんに映像を使い、問題点を浮き彫りにできるように努力しました。各回の収録をする前に、その回の全体の流れを3部に分け、各部で主張したい内容に沿う映像をディレクターに依頼し、集めていただいた映像の中から採用するものを2〜3に絞り込み、それに説明文を書き、アナウンサーにナレーションを入れていただきました。ナレーションの現場では、プロデューサーとディレクターとアナウンサーとが、映像に合うようにナレーションを入れる作業に多くの時間をかけていただきました。

映像を多く用いたため、著作権料も高くつきました。多額の費用をかけ、多くの人たちのご協力を得て作り上げた科目です。途上国に興味をもたれない人も、一度、放送教材を見ていただければと思います。そして、科目履修にまで進んでいただければと、期待しています。

基礎情報科学('09)

文化情報学プログラム 教授 川合 慧　東京大学教授（放送大学 客員教授） 萩谷 昌己

川合 慧 教授


萩谷 昌己 教授

一般に、書名や科目名としては、“基礎”より“入門”が、“科学”より“仕組み”が、それぞれ望ましいとされています。まず「親しみやすいこと」が、本を買ったり科目を受講したりしてもらえるキーポイントだからです。それにもかかわらず本科目は「基礎情報科学」という科目名としました。その心は、情報科学という学問の基礎としての「計算」に注目して頂きたかったからです。計算と言っても、足し算引き算といった数値の扱いだけではなく、いろいろな問題を解くための手順全体を扱いますので、その中には、問題の数理的な構造に基づく数学的な話から、実際の解決に要する手間の見積もり、そして解決手順の書き表し方の流儀にいたるまで、さまざまな話題を含んでいます。

この科目の前半では、まず「情報」の表現方法について見たあと、計算のやり方の流儀である計算モデルの代表的なものを紹介します。同じ問題解決のやり方と言っても、さまざまな考え方が存在することがわかるでしょう。ただしこれらの計算モデル達は、計算できる問題のクラスが一致する、という意味で等価なのです。所詮人間が考えたものなので当然なのだと言えるかも知れません。後半に入ると、実際の計算に必要な手間とその理論的扱い、いろいろな計算メカニズム、そして数理論理学で言う不完全性定理に対応した、計算不能な問題の存在を示します。最後の3章では、情報の記号化、情報量、実際の計算機械の成り立ちの基礎、そして現代のコンピュータで行なわれていることなどを紹介します。

本科目を学ぶことによって、現実的にはコンピュータの中で実行されているいろいろな計算過程がもつ豊富な内容と拡がりとを理解するとともに、その魅力の一端を感じ取って頂ければ幸いです。

多様な考え方を学ぶ

社会と産業 教授
社会経営科学プログラム 教授 仙田 満

平成21年度の仙田ゼミの学生の総数は35人である。その内訳は20年度入学の大学院2年生が12人、21年度入学の大学院1年生が8人、学部卒論生が3人、その他の大学院生やオブザーバーが12人である。毎月1回、六本木にある教授の研究所の会議室でゼミは開かれる。指導教官は教授の仙田満と客員教授の愛知産業大学の矢田努教授。仙田は建築計画・設計、都市計画・設計を専門とし、遊具から都市までを通貫するデザイン領域としての環境デザイン学を提唱している。矢田教授は東京工業大学、MITで学び、専門は都市計画、都市デザイン、建築計画である。

仙田ゼミは環境デザイン学という建築都市、造園、博物館、コミュニティ施設、公園、街路等のハードなデザイン領域から、参加、管理、運営事業というようなソフトな領域まで幅広く取り組んでいるが、「子ども、市民が元気になる環境をどうデザインするか」というテーマが共通コンセプトである。学部生、大学院生はそれぞれ身近な問題から出発して、さまざまな課題に挑戦している。健康な環境、魅力的な環境、人が集まる環境、子どもが健全に育つ環境、持続可能な都市の環境等々、それぞれの課題に対し発表し、自由に意見を述べ、議論を戦わせる。指導教官がその研究の方向を指導し、進めている。ゼミに参加することは自分の研究もさることながら、他の学生の研究のテーマの分野、方法等も勉強になる機会であり、友人をつくるきっかけにもなる。

仙田ゼミの風景

仙田ゼミでは、そのゼミの議論を通じ、自分の研究以上のさまざまな考え方を学ぶことを目標としている。

仲間とともに感覚を磨こう

心理と教育 准教授
臨床心理学プログラム 准教授 山口 義枝

大学院修士1、2年生との写真です。皆さん穏やかな表情をしていますが、次回ゼミまでの作業量の多さに心配している人もいます…。私の専門は臨床心理学です。論文書きと共に、修士のゼミでは心理臨床家としての感覚を磨く手伝いを、学部ゼミではテーマに関与する姿勢を伝えられたらと考えています。そのため対面でのゼミになるので、当日は皆さん、早起きをして通ってこられます。大変な作業に取り組んでいる学生の皆さんの姿から、私も活力を頂いています。

●学生の声●

研究室では、月に1回程それぞれの研究の進捗状況を報告しています。私は犯罪被害者に関わる側の心理を研究テーマとしていますが、先生の言葉によって、研究の為の研究に陥らないよう、常に「私の臨床」に沿った問題意識を持てるようにしていただいています。自由な空気の中、まとまらない考えを口にしてしまう私ですが、根気よく耳を傾けていただくことで新たな「気づき」に出会えます。これこそがゼミの醍醐味と感じています。（修士2年 田村睦子）

2009年7月 研究室にて

山口ゼミの魅力は、丁寧な指導です。修士論文を提出できるのかと不安や挫折しそうになることが幾度となくありました。そんな時ゼミに行き、各自の発表の後、自由に意見を交換することで、課題が明確になりました。山口先生の指導のもと、確かな臨床経験に裏付けられた豊かなイメージを的確に言語化していく作業が行われました。厳しいけれど暖かい先生と、大変さを分かちあえる仲間の存在が大きな支えになりました。（修了生 菱山玲子）

福井同窓会は、量的、質的充実を目指します!

福井同窓会会長 山下 博さん

福井同窓会は平成17年4月に設立され、現会員数は57名です。学位記授与式や同窓会主催祝賀茶話会欠席者への郵便振替用紙同封の案内状送付及び、役員による普段からのプレ勧誘等々を行ってきましたが加入率の低さは否めません（当会HPより閲覧可能の機関誌『つぐみ』の第4号に要因分析などの拙稿掲載）。

もっとも、会の第一義的使命を「お世話になった母校への還元」に据えて実施してきました各種行事には毎回、在学生の参加があり、好意的感想が寄せられております。さらには、9名体制の役員の履歴（県内12社限りの上場企業のOB、地場産業名門企業OB、高専、短大教官OBの各2名等々）及び各人の小まめさを含む人間的魅力などの各面が県内各界に口コミで伝わっているようで、本会が“知の交流拠点”（某政策秘書氏の弁ほか）イメージで捉えられていることを何度か確認しております。

アリス館志賀見学記念の看板を前に並ぶ研修旅行参加者

ところで、6月28日実施の研修旅行には、これまでの行事では最多の32名（会員、在学生）が参加されました。案内状などでのキャッチコピーは“初夏の能登路を訪れてみませんか？”で隣県石川の妙成寺、花のミュージアム“フローリィー”、北陸電力志賀原子力発電所などに行き、“楽”習しました。その折、原発PR施設の「アリス館志賀」での解説の質疑応答時には、技術知見を踏まえた推進賛意の一方で、社会工学的視点や、内在批判的スタンスからの発言もあり、関係筋に本会の知的水準や真摯さを感取していただく機会にもなりました。

終りに、会則上の5年分会費先払い制（5千円）に伴う「2010年問題」（更新率は?!）も控えております。卒業生・修了生で未入会の方の入会を呼び掛けますと共に、在学生の方々の各種行事への参加と、インフォーマルな形を含む当同窓会役員への声掛け・活用をお待ちしております。

熊本同窓会の小さな一歩

熊本同窓会会長 赤星 平四郎さん

今から6年前、私を含めた3人の話し合いにより同窓会の設立の計画がなされ、当時崇城大学構内にあった放送大学の内部に設置を考えたのです。

それから数年後、放送大学側のご尽力により熊本大学構内に熊本学習センターが移りました。熊本大学は「吾輩は猫である」の作者である夏目漱石（本名は金之助）が若い頃、第五高等学校の英語教師でした。壊れかけた赤門から構内を散策すると当時が偲ばれます。

景気払いにて

私事になりますが、今から60年前熊本工業専門学校（現在熊本大学工学部）に在学し第五高等学校との交流がありました。その当時と一向に変わってません。

扨、同窓会活動ですが春と秋に年中行事として放送大学熊本学習センターが行う卒業証書授与式と入学者の集いに参加しPRに努めています。そこで機関誌の重要性を認識しました。放送大学は通信制の大学で同級生といえども一堂に会することは困難で、熊本学習センターのご協力により掲示板の一部を借用してそこに機関誌を掲示することにしました（機関誌の名称は「銀杏（ぎんなん）」です）。

また、私達受講生がここにあるということは放送大学の職員があってはじめて成り立つことであり、そういう意味で放送大学熊本学習センターとの交流をはかりたいと考え、早速計画したのが平成21年6月27日の景気払いでした。和気あいあいとして大変有意義な会合になりました。今後もこのような交流会を計画したいと考えています。

茨城学習センター所長　朝野 洋一

立地条件に恵まれた茨城学習センター

JR常磐線や常磐自動車道で茨城県に入ると、平坦で緑の多い風景が出現し、ずいぶん遠くに来た印象を受けます。しかし水戸は上野から常磐線で120km、東京都心や幕張との距離は、論文指導を受ける学生や出張の職員にとってさほど苦になりません。

茨城学習センターのある水戸市は、人口約26万と小振りですが、県庁所在地のため高次の都市機能が一通り揃っています。都市生活の豊かさは、人口規模よりも都市機能の集積の度合いにあることが実感できます。

当センターは、茨城大学水戸キャンパス内にあります。旧日本陸軍の歩兵営跡地のため、敷地は起伏がなく直線的な囲堤や通路が目立ち風情に欠けます。しかし、広すぎず狭すぎず、図書館・食堂･郵便局など徒歩で用が足せます。

職員集合写真

茨城県の県域は南北に長い歪んだ台形状ですが、ほぼ全域が水戸から自動車で２時間の圏内にあります。茨城学習センター所属学生971名の約45％は水戸の20km圏内に住んでいますが、日立や土浦・つくば地区にも多く居住し、極端に集中しているとはいえません。都市と田園が混在する県域、東京から程よい距離にある水戸、県域全体から集まりやすい位置にあるセンター、学生間や教職員と学生の交流がしやすい中規模センターといった好条件の中にあるのが茨城学習センターです。

サークル活動

茨城学習センターには、５つのサークルがあります。「楽しく」「新鮮な驚き」がモットーの「英会話サークル」。パソコンの初歩から応用まで、幅広く学習できる「パソコンサークル」。自分たちの住む茨城の歴史を調べる・学ぶ・そして訪ねる「ふるさと探勝会」。勉強だけでなく、体も鍛えたいという要望から設立した「ゴルフサークル」。その名の通り、数学を共に楽しむことを目的に去年から活動を始めた「数学共楽会」。

どのサークルもとても熱心に活動しています。興味のある方は、まず体験からどうぞ！！

ふるさと探勝会:「水戸のロマンチックゾーンを歩く」より

セミナー

「香道（こうどう）」という言葉を知っていますか？「茶道」･「華道」といった礼法と同様に、香木をたいて香りを楽しむ芸道のことを香道といいます。昨年から好評をいただいている客員教授の堀口悟先生によるセミナー「日本の香り文化」では、香りについて様々な角度から学習し、実際に簡略式の香道を体験することもできます。

他にも茨城学習センターでは、客員の先生方による「１つのテーマを１年間じっくり学ぶ」といったセミナーを多数開催しています。ぜひ一度参加してみてください。

茨城学習センター
水戸市文京2-1-1（茨城大学内）　〒310-0056
水戸駅からバスで約30分　電話：029-228-0683

島根学習センター所長　内藤 富夫

島根学習センターはいいところですよ!

JR松江駅から西に向って700mばかり歩くと、城下町の名残りをとどめた古い町並みのなかに、「STIC市民活動センター」と書かれた、垢抜けした5階建ての建物があります。ビルの玄関を入ってエレベーターで4階に上がり、それを降りて少し進むと、「島根学習センター」のネームプレートが目に入ります。ここが島根学習センターです。事務室をすぎて隣の図書・視聴室に入ると、20組の映像視聴機器と20組のオーディオ機器がまっています。視聴室は島根学習センターで一番落ち着いた部屋です。毎日20名前後の方々が、早くから遅くまで利用しています。視聴室の少し奥と3階に講義室があります。ここに入ると、「学校にきた」という感じがします。

正面が島根学習センター

図書･視聴室

活動の様子

島根学習センターには、現在、600名ほどの学生が所属しています。その方たちの住所は鳥取県西部から島根県全域にわたっています。ただ、島根県西部や隠岐地域の学生の比率が小さいので、これらの地域の方々にもっと放送大学で学んでいただくよう、今、努力しています。私たちが常に心に留めているのは、「学生支援を全力で」ということです。客員教員も職員も、学習相談や履修相談に特段の力を入れています。面接授業では、「石見銀山の歴史」（平成20年度第2学期集中型）や「王権・神話と古代出雲の歴史学」（平成21年度第１学期）のように山陰の地域性を盛りこんで、島根学習センターの特徴が出る工夫をしています。新潟、東京、福岡など遠くから受講に来て下さる方も多く、これは私たちの大きな励みです。客員教員を中心とした勉強会も継続的に開いています。学生サークル等の活動も盛んです。現在、「俳句」、「風土記を歩く会」、「臨床心理医学研究会」、「学友会」というサークルやグループが楽しく活動しています。

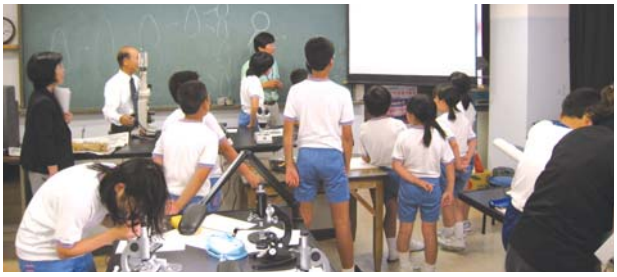
窓口

島根学習センタースタッフ

連携

今年度から、島根大学との間で、双方向単位互換制度を発足させました。島根県立大学とも単位互換を実施しています。地域とのつながりにも力を入れており、公民館等といっしょになって定期的な勉強会や講演会など、いろいろな計画をたてています。

もうひとつ、小学校や中学校で毎年出前授業をしています。これは、とても好評です。



浜田市立市木小学校理科実習

ご来所、歓迎します

島根学習センターを出て西に数分歩くと、NHKドラマ「だんだん」の舞台になった宍道湖のほとりにでます。湖畔に立つと、西にはるかな眺望が開けます。特に茜色に染まる夕日はみごとで、まさに「感嘆！感嘆！」です。島根学習センターは、場所も居心地も、申し分なくいいところですよ！皆さん、是非おいでください。

島根学習センター
松江市白潟本町43（スティックビル4階）　〒690-0061
JR松江駅から徒歩10分　電話：0852-28-5500

日本文化と韓国文化の交流を深める
神奈川学習センター〈韓国語同好会〉

韓国語同好会は2005年10月1日に発足したサークルです。同年春、神奈川学習センターの面接授業『初歩の韓国語』の受講者で立ち上げました。韓国語の日常会話の習得、日本文化と韓国文化の交流をはかることを目的に掲げています。会員相互の親睦を深めることも勿論です。

今年2月に、本部の濱田教授のご尽力で、念願の第一回目の韓国研修旅行が実現しました。4月に大岡地区センターの調理室を借りての韓国料理作り、7月には映画『シュリ』を一般の方も参加で鑑賞会開催。これからもゆっくり、楽しみながら隣国、韓国の文化と向き合って行きたいと思います。

今回は、韓国放送通信大学校釜山地域大学日本学科との交流の感想を紹介させていただきます。

일본방송대학 한국어동아리에서 한국방송대학에 관심을 갖게 되고, 먼저 방문함으로써 시작된 인연이 두 대학 간의 학습교류를 통해 학습동아리 간의 교류로 이어지면서 가깝고도 먼 나라라고 표현이 될 정도의 어렵고 힘든 두 나라의 관계와 세계화라는 공통적인 명제 속에서 이제는 두 나라가 함께 한다는 인식하에 크게는 문화적, 작게는 개인의 생각과 서로의 편견을 조금이나마 극복할 수 있는 교류가 되기를 진심으로 바랍니다.

또한 대학 당국 간에 학점교류나 상호 공통적인 연구 과제를 선정하여 학술 토론 등을 할 수 있는 교류회로 발전되었으면 합니다.

그리고 이번에 도쿄에서 저희들과의 만남은 일본학과 학습동아리 회원으로서 여러분들의 너무나 큰 마음을 가슴깊이 새기는 계기가 되었고, 너무나 좋은 분들과 인연이 되었다고 생각합니다.

이 인연이 끝까지 변하지 않는 인연이 되게끔 노력하겠습니다. 끝으로 무라타 가즈코 회장님이하 여러 회원님들께 진심으로 감사드립니다.

일본학과 학생회장 송성기

（和訳・要約）

日本の放送大学神奈川学習センター韓国語同好会の皆さんが、私どもの大学を訪問（2月）してくださったことから、縁がうまれ、過去の『近くて遠い国』の表現が、これからの交流を通じて、お互いが共通理解の下で、大きくは文化的に、小さくは個人の考えで、お互いの偏見を少しでも克服できる機会にしていけたらと願います。

また、大学間での単位取得が可能になることや、共通の研究課題を選定して、学術討論などが出来る交流に発展していけたら望ましいと思います。

先日の東京での再会（5月）で受けたもてなしを感謝します。これからもこの縁が変わらないように努力していきたいと思います。

韓国放送通信大学釜山地域大 日本学科学生会会長 宋　性基

韓国語同好会の研修旅行として、韓国放送通信大学校釜山地域校を訪問しました。現地では日本学科の皆さんが歓迎して下さいました。大学施設を案内してくださった後、教室にて交流会が開かれました。互いに相手の言語で自己紹介をし、和やかな会となりました。

場所を居酒屋にかえてからの二次会は、更に盛況な会となりました。互いに拙いながらも相手の言葉をつかって会話をしました。会話と言っても、知っている単語を並べて、何とか通じるといったところです。「話したい、伝えたい」という気持ちが高まる一方で、うまく話せないというもどかしさがありました。それは釜山の皆さんも同じだったようです。「오빠（お兄さん）」「동생（弟、妹）」とふざけて呼び合ううちに、親交を結ぶことが出来ました。

コミュニケーションをとるには、上手に話すことよりも、伝える気持ちが大切だと改めて感じました。

（韓国語同好会 会長 村田カズ子・稲葉　滋）

韓国放送通信大学校釜山地域大学訪問

ハングル学習

大学前の碑文『夢と熱情（情熱）があり
勉強する人間は いつも青春である』

東京大学三四郎池で

根津神社近くで、
日本学科の皆さん

城郭を中心とした地域文化の理解に努める

兵庫学習センター・姫路サテライトスペース〈城郭研究会（ハクロ）〉

「城郭研究会（ハクロ）」は、平成19年9月に兵庫学習センターの14番目のサークル、さらに、姫路サテライトスペースに本拠を置く初めてのサークルとして立ち上げました。国宝「姫路城」を正面に眺め、日夜勉学に励んでいる我々にとって最も相応しいサークルを作りたいと数名で語り合い、最初は10名で発足しましたが、現在は14名の学生が所属しています。

サークル名の（ハクロ）とは、白鷺が大空に舞うような優美な姿の姫路城の別名「白鷺（はくろ）城」から取り、バタ臭くカタカナにしてみました。また、平成5年に世界文化遺産に登録されたこともあり、少し気取ってもみました。

我々のサークルの活動は、姫路城及び周辺の中堀巡り等を中心にしており、これまで中世の山城跡を訪ねています。青春18切符等の割安切符を利用して、同じく国宝の「彦根城」があり、中世の山城跡も非常に多い滋賀県にまで足を伸ばしています。また、お城の勉強という意味では、姫路城の北側にある、姫路市が運営する「日本城郭研究センター」で市民セミナーを受講したり、城郭関係資料を閲覧したりしています。

以下に、兵庫県の城郭に関するいくつかを紹介いたします。

安土城に始まる近世城郭としては、我が兵庫県では、姫路城の他に明石城、篠山城、赤穂城、竜野城があり、このうち天守のあるのは姫路城だけであり、篠山城に至っては櫓は一つもなく復元した御殿があるだけです。

中世の「砦」から石垣を積んで、近世城郭の姿にしたのが竹田城（朝来市）ですが、徳川の天下になってから廃城となり、天守や櫓等が姿を消してしまって堂々とした石垣だけが威容を誇っています。中世の山城跡では、播磨、美作、備前の太守で勢威を誇った赤松氏の城が随所に見られます。赤松氏発祥の地、赤穂郡上郡（かみごおり）町の白旗城は毎年11月に「白旗祭り」が催されます。また、姫路市北部の夢前町にある置塩城は、後期赤松の拠点となった城です。建物は何も残っていませんが、広大な城跡に都風の御殿跡も認められます。赤松氏の中世山城跡には面白い伝承も多々あります。源平合戦で有名な「義経のひよどり越・一の谷の逆落とし」の出発点になった「三草山」には、赤松氏の城があり、峻険な山上にあって、難攻不落のようですが、落ち葉に油をかけ火をつけて攻め落とされたそうです。また、加西市の善坊山の城では、急坂に笹の葉を撒いて油をかけて、敵が滑って登れなくしたそうですが、これも火をつけられて全滅、明治の頃まで「ガイコツ」が散乱していたそうです。

我々は、これからも体力向上で多くの山城を巡り、往時に夢をはせ、城郭を中心とした地域文化の理解に努めていきたいと思っています。

なお、姫路城大天守は、昭和30年代に行われた昭和の大修理以来となる修理を平成21年の秋から行う予定です。全国の皆さん、改修までにぜひお越しください。

〔文責〕代表者　菊角 昭春（全科履修生）

姫路城（兵庫県姫路市）にて

竹田城（兵庫県朝来市和田山町）にて

世界文化遺産
国宝姫路城

明石城（兵庫県明石市）にて

「名誉教授称号授与式」を挙行

総務企画課

6月17日（水）11時30分より、学長室において、3月に退任された大橋英寿 前宮城学習センター所長及び柏倉康夫 前附属図書館長に対し、石学長より放送大学名誉教授の称号を授与しました。

また、授与式終了後、石学長、岡部副学長、荻野副学長、本間副学長及び松村附属図書館長を交えて昼食会を開き、本学の近況や課題などについて意見交換を行いました。

今回2名の方に授与したことにより、平成14年に名誉教授称号の制度ができてから放送大学名誉教授の称号を授与された方々は19名になりました。

（後列左から）池原事務局長、松村附属図書館長、本間副学長、岡部副学長、荻野副学長
（前列左から）大橋名誉教授、石学長、柏倉名誉教授

平成21（2009）年度第2学期面接授業科目の追加登録

学習センター支援室

10月から始まる第2学期面接授業について、空席がある科目は追加登録をすることができます。
登録機会は2回、日程等は以下をご確認ください。

	空席発表日	登録受付期間	10月に新規入学・継続入学された方の申込み
第1次追加登録	10月中旬	10月下旬	○
第2次追加登録	11月中旬	11月下旬	○

空席状況（追加登録の対象となる科目）は、空席発表日以降、各学習センターの掲示・キャンパスネットワークホームページ（http://www.campus.u-air.ac.jp/u-air/）でお知らせします。受講したい科目をご確認のうえ、登録受付期間内に、当該科目を開設する学習センター・サテライトスペースへ申請してください。

※申請の際は必ず、学生証（コピーは不可）・授業料をご持参ください。

※申請の方法等くわしくは、当該科目を開設する学習センター・サテライトスペースへお問い合わせください。

「放送大学創立25周年記念募金」ただ今募集中

総務企画課

放送大学では、創立25周年を記念した募金を行っています。この募金は、学習センターにおける学習環境・学習活動の改善や同窓会活動の支援などに役立てられます。

全国の学習センターに募金趣意書と振込用紙を備え付けていますので、皆様のご協力をお願いします。

これまでの募金総額や今年度の使途及び募金の趣旨等の詳細は、以下のホームページをご覧下さい。また、募金についてのお問い合せは総務部総務課総務係（電話:043-298-4206）までお願いします。

●募集金額
学生の方は一口5千円ですが、それ以下のご寄付も大切に活用させていただきます。

放送大学創立25周年記念募金ホームページ
http://www.u-air.ac.jp/hp/osirase/donation/donation_index..html

編集後記

「オン・エア」は季刊なので、年に4回、3か月ごとのお届けです。放送大学の季節のお便り、いわば歳時記です。歳時記ですから、基本的な内容は、ある意味で安定しています。世界の大学との交流など大きなトピックや新科目の紹介、各地の学習センターやサークルの近況などが、欠かすことの出来ない大切な記事です。と同時に、毎号、待ち遠しく思っていただけるよう、新たな工夫も凝らしています。

今回は、読書や芸術の秋にふさわしい企画として、五味文彦先生と佐野みどり先生の対談が実現しました。2人で詠み合う連歌の「両吟」は、響き合いつつも、思いがけない展開の妙が醍醐味です。両先生の両吟のごとき対談を、どうぞお楽しみ下さい。（島内裕子）

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@u-air.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員（平成21年度）

委員長	教授	松村　祥子
委員	准教授	岡崎　友典
	教授	鈴木　基之
	准教授	島内　裕子
	准教授	二河　成男
	准教授	大西　仁
千葉学習センター所長		宮崎　清
編集事務担当		総務部広報課

放送大学
http://www.u-air.ac.jp/　ISSN 1343-3369